



ぼらんていあ通信

10月号
通巻 No.443

発行 / NPO法人 相模原ボランティア協会 2018年10月26日

連絡所 〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20 あじさい会館・中央ボランティアセンター内

TEL/FAX: 042-759-7982 Eメール: sagamiva@feel.ocn.ne.jp HPアドレス: http://sagamiva.info/



ほかほかふれあいフェスタ2018 爽やかな秋晴れの中 大勢の人で賑わう!



十月二十日(土)十時よりあじさい会館ホールで録音奉仕会の江田博江さんの司会で開会セレモニーが執り行われた。まず実行委員長鈴木秀美氏が「1980年の『ボランティアの集い』と『ハンディフェスティバル』の2つが合体して開催場所、名称を変えながらも受け継がれ今日の『ほかほかふれあいフェスタ2018』が開催されます。本年の特徴は「健康フェスタ」と「健康スポーツイベント」が同時に開催されることです。とスピーチのついでお楽しみください」と述べ、次いで来賓の市健康福祉局長熊坂氏、市議会議長宍倉氏、社会福祉協議会常務理事の高部氏から祝辞をいただいた。最後に高橋副実行委員長が「今日一日健康に十分注意して事故や怪我のないよう一日を楽しんでください」と結び、セレモニーは閉会した。

十二時半からさがみ緑風園コーラスクラブの皆さんの発表、十五人の歌好きが毎月二回集まり、昔懐かしい歌や季節が感じられるような歌を選んで練習を積んでいるそうだ。今日は六人のメンバーがいつも指導してくれる先生のピアノとギターの伴奏で『もみじ』『赤とんぼ』など五曲を披露。盛んな拍手を浴びていた。



《ホール》



さがみ緑風園コーラスクラブの皆さん



にこまる君も参加



東林間連の阿波踊り
観客も手拍子を入れ、踊る方も見る方も楽しめました!

広場開会宣言のあと、午前中はヒップホップダンス、バンド演奏、車椅子ダンス、大道芸、午後からチャリディングの元気のよいパフォーマンスの後、けやき体育館の講習を受けた後グループ結成したという「チーム絆」の皆さんによるよさこいソーランは、元気はつらつとはじていて心から楽しんでいる様子だった。カウフルでパワフルな東林間連の阿波踊りは見事なものでした。

ミニSLが走る横でバンド演奏や歌があるので汽笛が入ったり石炭をたく独特のにおいや蒸気が流れたりしてなかなか楽しい光景が繰り広げられている。日差しもあり風も心地よく、歩道の向かいでは、模擬店やバザーが店開きしていて、午後一時過ぎでも人出が絶えないほど賑わっていた。

広場開会宣言のあと、午前中はヒップホップダンス、バンド演奏、車椅子ダンス、大道芸、午後からチャリディングの元気のよいパフォーマンスの後、けやき体育館の講習を受けた後グループ結成したという「チーム絆」の皆さんによるよさこいソーランは、元気はつらつとはじていて心から楽しんでいる様子だった。カウフルでパワフルな東林間連の阿波踊りは見事なものでした。



《広場》



ミニSLに乗ってご機嫌です



午後2時を過ぎても模擬店はにぎわって!



《館内》

一階受付でプログラムと館内七か所をめぐるスタンブリー用紙をもらう。六階では、神奈川県ライオンセンターによる視覚障がい者のサウンドテーブルテニス、さがみ緑風園による車椅子体験や福祉用具を使うひろい体験などができた。



サウンドテーブルテニス



「わりばしたごさん」など、面白い作品が



折り紙でモール作りを

大図書館の見事な出来はえには感心するばかり。折り紙や手芸などを楽しめる手芸サークル『糸くぐり』では、学童保育のヘルパーさんに連れられたお子さんが折り紙に挑戦して、お母さんにお土産ができたと言っていた。(勝部・山崎)

三階では視覚障がい者向けの筆記通訳サークルもみじによる手書きやパソコンでの筆記体験、手打ちの点字体験では、おきさんは呑み込みが早いのですぐ覚えやすいというのが共通した担当者の感想だった。弱視の方向けの拡



マイクの前に座ると緊張する録音体験

五階のほかふれコーヒーションでは五種類の味から選べるエスプレッソが自新しく一息入れる人で賑わっていた。四階の相模原録音奉仕会による録音体験コーナーでは、「星」という詩を読んだ上沢陸斗君や一年生の小田あかりさんも自分の声を聞いた感想は共に「楽しかった」というものだった。

コース別講座

。。 外出援助講座が終了！

相模原誘導グループささの会開催で、九月十一日(火)から全五回で開かれていた外出援助講座の四回目、九月二十八日(金)と最終回の十月九日(火)を紹介します。

九月二十八日(金)午後、この日の受講生は一名。あじさい会館で活動しているボランティアグループの録音奉仕会ひばりと点訳赤十字奉仕団を見学。そしてウエルネス階にある視覚障害者情報センターを見学。その後バスの乗り降りの実習で市役所前からJR相模原駅まで乗ってみました。



バスの乗車体験

「混んでいたのアイマスクをつけていると、周りの人の声がかなり気になります」「立っている体勢を崩しやすくな変った」「少しの段差でも声かけが大切と感じた」という感想でした。

十月九日(火)午前十時からけやき体育館でテニスの練習に参加。ささの会がいるバнковの会員と視覚障がいのある方が楽しく練習しています。受講生は四人うち男性一人。はじめに全員でラジオ体操をしてから実習へ。まず球拾いのやり方を教わる。これにもコツがあって拾った球を返す時は、ゲームの途切れたときに返すなど、まわりの状況を見ることが。準備や片付けも一緒にがんばり、コミュニケーションを

ことにも心掛けることが大切です。ボランティアさんのなかには十年以上活動しているという方も多くいます。ラリーの基本を少し紹介すると、打った球は二バウンド、三バウンドで打ち返す。

コートラインは手や足などで触って確認。バウンドで宙に玉が浮くことで、打ち返すのがむずかしい。受講生が体験してみても、動けない、足に接着剤が着いたよと悲鳴をあげていました。スポーツをするのも大変だということがわかるだけでよいそうです。上手な人は大会にも出るそうです練習にも熱が入っていました。

修了式はあじさい会館五階で行われました。ボランティア協会高橋会長より修了証が渡され、「ボランティアはやっているのが楽しいです。元気になります。ぜひ入会してください」と励ましの言葉がありました。ささの会会長の島村さんからも「ぜひ入会して活動して下さい」とエールをおくられました。

最後にめでたく修了された受講生が、「実際にアイマスクをつけてみて、目の不自由な事の大変さがわかりました」「皆さんが楽しんでる事に感動しました」などこれから体験をしながら入会を決めるそうです。

(杉崎、植野)



点字版の「広葉さかみはら」を見せてもらう

ボランティア活動グループ訪問記



久保沢地区

「ふれあいカフェ」



ちよつと汗ばむような陽気の九月二十三日(日)、

城山総合事務所近くの久保沢自治会館で月一回開催される「ふれあいカフェ」に広報委員の勝部さんとお邪魔した。自治会館の入り口には「ふれあいカフェ」のぼりがたてられ、参加者を出迎えてくれている。久保沢自治会館は、大きな窓に囲まれたとても広々とした建物で、涼しい風が部屋に吹き込んでいてとても気持ちがいい。勝部さんは「ふれあいカフェ」世話役のひとりでもめる。

代表の宇留野勝幸さんと「ふれあいカフェ」の設立からの様子を伺った。

「福祉コミュニティ形成事業の一つとして社協からの依頼で、民生委員 ボランティアさん、諸団体を集めて七人ですタートし、もう二年になります」「会費は百円で、毎月第四日曜日の午前中に開催しています。財布やストリップ、季節に合わせた折り紙などの手作的なものを中心に、また、キーボードの演奏で歌ったり、体操をしています。会員の中心にはマシクも出来る人がいて、皆さんが楽しめるように工夫を凝らしています」



代表の宇留野勝幸さん

七月は子供たち向けに「対馬丸」の映画上映だった。参加は誰でもOKだが、大体女性の高齢者の方が多いいい。作品が完成するまで

茶や軽食をとりながらおしゃべりを楽しんでいる。手作りの方が皆さん喜んでくれるこのこと、お団子やうどん、蕎麦やラーメンなど、毎回工夫を凝らしている。だいたいは男性が料理を担当し、女性は食べる専門だった。

今日は近隣の小学校の運動会と重なってしまい、参加者は十数名だったが、毎月二十名位の参加者があるという。

毎回、手作りの作品のアイディアを考案、材料などの準備をなさっている民生委員の菅野敬子さん、作業の合間にお話を伺った。

「作って飾れて楽しめて使えるものを中心にしていきます。ひな祭りにはハマグリやあざりの殻で作る雛、財布やストリップ、七夕飾り、お手玉なども。毎月来られる方は、作成を楽しみに参加していただいています」



中央の女性が菅野敬子さん

今までの作品を見せてもらうと、どれも短時間で作ったものとは思えないほどの素敵なものばかりだ。

「今日はお月見に合わせて、折り紙でウサギ、団子を載せる三方、ススキを飾る壺です」

テーブルの上には、色とりどりの折紙や、本物のススキ、またかわいいい完成品が！ところが、実際に折ってみると、簡単そうに見えてもなかなか手こわく、「ウサギの耳が折れていない」「反対にひっくり返さなくては」「ああ、こっかー」ちがちがうー！」「いい加減に折るよ、いい加減の作品になる」「それを言われると...」「あ、疲れた」菅野さんに教わったり、お互いに教えあったりなど皆が大作に夢中になっていった。

「三方作りは、こまぎよりの簡単でいいね」「それが素人よ」「こが、今日は難しいので、人が少なくてよかったね」などと、おしゃべりと笑い声が絶えない。折の終えんと、ポンドでお団子をくっつけて、ススキを飾って出来上がり。

その間、台所では男性陣が手作り白玉団子入りのフルツポンチ作りには汗を流していた。

出来上がった作品をテーブルの真ん中に飾り、白玉入りのフルツポンチを、一緒に御馳走になった。すく美味しかったです。

菅野さんが作られたお月見飾りもお土産にいただき、おかげで今年は素敵なお月見を迎えることができました。 (勝部・恒藤)

*連絡先

勝部幸三

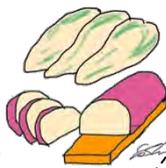
04217824926



11月の記念日は?

小倉義男

11月15日、かまぼこの日です。蒲鉾が初めて文獻に登場したのが永久3年(1115年)の祝宴の膳の図に描かれていたものとされていることから、1115年の数字の並びから11月15日を記念日としたそうです。また、七五三に際して子供の成長を祈って紅白のかまぼこを供したことも理由としているとのこと。全国蒲鉾水産加工業協同組合連合会が1983年に制定。おめでたい時には、欠かせないものですね。(〽) 小倉画



ぼらんていあ(15) & あいの会

私たちは「あいの会」「葉月会」といって民謡や踊りと共にいっしょにボランティアで各老人ホームを回っております。

さらに相模原民謡協会にも入っており、年間行事で、相模原市民会館で踊りや唄などで出演し、楽しんでいきます。

民謡は唄、津軽三味線、太鼓、尺八、お囃子。これが「あいの会」です。

踊りは葉月会で、民謡踊り専門です。そうらん節や、花笠音頭、才太郎節など全国の民謡です。

民謡のあいの会と踊りの葉月会の二組セットで老人ホームなどを回っております。

老人ホーム職員の感想文から抜粋

○プロ並みの皆さんの演奏は心に響いて感動しました。これからも素敵な演奏を聞かせてください。

○今まで直接民謡を聞く機会がありませんでしたが、あいの会さんの演奏を聴き、とてもいいもんだなあと思っています。これからも利用者さんに素敵な歌声を聞かせてください。

○あいの会の皆さんの演奏や唄は利用者さん以上に楽しませていただいています♪三味線・尺八は私もやってみたいと思いました。これからもよろしくお願いします。



あいの会 & 葉月会

老人ホーム、プログラムの一例

- 1. 棟上げ祝い 踊り 葉月会
- 2. 鱧釣り唄 踊り 葉月会
- 3. 秋田節 唄 あいの会
- 4. 秋田おばこ 唄 あいの会
- 5. リンゴ節 踊り 葉月会
- 6. 花笠音頭 踊り 葉月会
- 7. 秋田馬子唄 唄 あいの会
- 8. 本庄追分 踊り 葉月会
- 9. 皆で炭坑節 皆で一緒に

問合わせ先

民謡 あいの会 代表 あいかわよしお 相川良雄
 電話 042・778・3438
 携帯 090・5028・3307
 踊り 葉月会 代表 やまぎしみつな 山岸光永
 電話 042・733・6648

理事会報告

十月三日(水)十三時半から(理事八名出席) 一・報告事項

◆広報

・わくわく秋号は十月二十七日に発行
 ◆ハンディキャブ委員会

・来年四月より運転ボラの定年制を施行する。
 ・運転ボラ獲得にはポイント制他導入を検討。

◆総合企画委員会

・ハンディキャブ・法人事務の今後を話し合う。

◆事務局委員会

・ハンディキャブ関係の事務処理の方法等の周知をハンディキャブ委員会に依頼した。

◆講座検討委員会

・春講座(終活講座)は来年三月十九日(火)小田急相模原 ラクアルおださがにて開催。

◆傾聴委員会

・新人と既活動者の交流会を九月十一日に行った。

二・審議事項

・来年度通常総会の日程は五月十九日に決定。
 ・一回の寄付金が五千円以上の方には、礼状を送付し了解を得たうえでぼら通に名前を掲載する

・寄付の郵便振込手数料は当協会負担とする。

・「連協」二十周年記念講演会に当協会が後援する

三・その他

・役員選出管理委員五名が決まる。
 ・「相身連」の作品展設営、撤去のボラ五名確保。

・東林福祉まつり(十月二十七日)模範店出店

次回理事会 十一月七日(水)



ボランティア協会 11月の予定

日	時間	内容
5(月)	16時	総合企画委員会
7(水)	13時半	定例理事会
10(土)	13時	事務局委員会
17(土)	10時	HC委員会
19(月)	13時	ぼら通印刷
20(火)	13時	ぼら通発送
28(水)	13時	ぼら通部会

svc@sagamiharashishakyo.or.jp

Eメール

Fax 042・7866・6182

電話 042・7866・6181

中央ボランティアセンター

問合せ先 相模原市社協

識や技術を学びます

ア活動のコーディネーターに必要な知

識や技術を学びます

災害ボランティア
コーディネーター養成講座

日時・場所

十一月十七日(土) 十八日(日)

午前九時半〜午後五時

あじさい会館五階ボランティア活動室

内容: 発災時に立ち上がる災害ボラ

ンティアセンターでは、活動を支え

るコーディネーターの役割は重要で

す。生活支援活動を行うボランティア

ア活動のコーディネーターに必要な知

識や技術を学びます

ありすフェア 2018冬

日時:

十一月二十九日(木)〜十二月一日(土)

場所: ユニコムプラザさがみはら

(ポーノ相模大野サウスモール三階)

内容: 知的障がいのある方の通う

事業所による手織り製品の展示販

売を行います。

問合せ先

NPO法人ほっと ありす工房

(担当: 松岡、長森)

電話 042・776・6548

さがみ糖尿病週間行事

市民公開講座

日時: 十一月十八日(日)

午後一時〜四時

場所: ユニコムプラザさがみはら

(ポーノ相模大野サウスモール三階)

内容:

血糖・ヘモグロビンA1C測定

医療・看護・栄養・薬相談

宅配食展示ブース

糖尿病に関する講演会

問合せ先

北里大学病院(担当: 碓井・坂本)

電話 042・778・8111

Eメール

yuri-dayo@i.softbank.jp

「Always be Professional」!

私たち有限会社梅津測量設計事務所は、相模原で創業して29年目を迎える土地家屋調査士、測量士をはじめとする国家資格者・専門家による会社です。

私たち専門家の使命は自らの専門性を活かしてお客様の満足に応えること、ひいては社会に貢献することです。しかし、社会の仕組みがより高度化・複雑化するなかで、ひとりの専門家でお客様のニーズに的確に対応することには限界があります。特に、同じ事例が二つとしてない不動産・相続の分野ではその個性もそれを取り巻く環境も様々であり、複合的・総合的知識が強く求められます。そして、不動産というお客様の大切な財産・人生にかかわる仕事だからこそ、その業務に携わるスタッフの道徳心や品位・品格がもっとも大切だと考えております。

真に社会に役立つ技術者集団・専門化集団であるために、「誠実・正確・プロフェッショナル」の理念のもと、知識・技術の向上はもちろん、人間的素養を磨くために日々切磋琢磨してまいります。



梅津 賢一さん

相模原市で活躍する会社紹介



UMEZU SURVEY

有限会社梅津測量設計事務所
梅津土地家屋調査士事務所

会社名 (有) 梅津測量設計事務所
代表取締役 梅津 賢一さん(34歳)
(公社) 相模原青年会議所
アカデミー渉外委員会 委員長
本社〒252-0237
中央区千代田1-6-12
電話 042-753-0341
Email: info@umezu-survey.com

事業内容

- ・各種測量
- ・土地境界管理
- ・開発・宅地造成設計監理
- ・各種許認可申請手続
- ・各種登記

市社協事業紹介 (その7)

ボランティア協会の皆さま、こんにちは！
相模原市では多くのボランティアの方々、自治会、地区社協、民生委員・児童委員の皆さまが、それぞれの地区で福祉活動に取り組んでいます。市と市社協も、多くの方々の協力を得て、「みんなが支え合い地域の力が育む 人ごやむい まち さがみはら」を共通のスローガンとして、地域福祉の推進に取り組んでいます。今号では昭和二十七年以降の「地区社協」の設立や相模原市社協のあゆみについて触れたいと思います。

(前号から続く) 町を挙げて社会福祉協議会の設立を目指し、上溝地区社協が昭和二十七年四月二日に発足して以降、町内には橋本、大野北、大野中、大野南、大沢、田名、麻溝、新磯と、上溝を含めて九つの地区社協が年内に続々と誕生しました。

当時の上溝地区社協の活動は、前例のない中で手探りで始められましたが、時代や地域性を反映した社協らしい活動が「季節保育所」事業として開始されています。その内容は次の通り記録されています

季節保育所の開始

この事業は、上溝地区社協の昭和二十七年度における最大の事業として実施されました。「季節保育所」の開設は、どのようにして提案されたのか。上溝地区内の星が丘部落(県営集団住宅数四百戸がある)に所在する双葉園(保育所)の園長(鈴木女史)から、地区内に農村部落が多いから、ぜひ、季節保育所の設置が必要であるとの強い主張があり、

これが取り上げられたならば、その運営には積極的に協力する旨の申し出がありました。

この申し出を受け、社協三名、民生委員一名、保育園長一名、児童保護者約五十名で構成する「季節保育所開設懇談会」を設置し、保育所開設準備、開設日時、経費の概算、給食方法等について協議し、丸崎部落に開設することで決定しました。

保育所の名称は「丸崎季節保育所」といい、場所は丸崎倶楽部に設置、期間は五月二十六日から一か月間、対象児は満一歳以上から小学校入学までの幼児四十四名、保育の内容は生活指導と保護、保護者は保母(専門者)一名、補助者二名、保育時間は午前七時から午後六時まで、給食は昼食は携行、午前・午後二回、父兄負担額一保育児に対し五百円、総予算額三万九千円でスタートする事とし、五月二十五日に開所式が挙行されました。

また、そのほかの事業として「児童遊園地」を一か所、相模線上溝駅前の高台に設けることで、計画の細部を練り、経費は町当局に設置方を申請することで協議してきましたが、その後の交渉は不調に終わり、計画は一時延期となったという記録が残っています。

この季節保育所事業は、当時の上溝地区に営農者が多く、田植え等の時期には家族総出で農作業に従事していたことから提案されたもので、地域特性を踏まえて、地域内の福祉(保育)施設事業者の視点から提案され実施されたことが、今日においても評価される事象であると思われます。

その後、昭和三十一年に中央、翌三十二年に相模台、四十六年に相武台、四十八年に東林地区社協が設立され、五十九年には中央地区社協が六分割(小山・清新・横山・中央・星が丘・光が丘)されたため、旧市の十八地区対制となりました。

さらに平成十八年三月に津久井、相模湖地区、翌十九年三月には城山、藤野地区が加わり、二十二地区体制になりました。現在も地域特性を生かしながら数々の地域福祉事業を展開しています。

町社協のあゆみ

昭和二十七年の地区社協設立を基盤に、同年九月には相模原町社協が発足します。この当時の町社協の活動を見ると、地区社協活動を支援するための助成事業(児童遊園整備費や季節保育所)や、民生委員大会の支援など、現在の市社協活動の基盤ともいえる事業が展開されています。

昭和二十九年の市制施行に伴い、町社協から市社協へと改称され、三十三年には専任職員が配置されました。翌年の「心配事相談」事業、三十九年の社会福祉協力センター(後の善意銀行)↓五十六年のボランティアセンター)、四十一年のボランティア研修会開催となり、五十四年「ハンディキャップ市民の会」発足、五十六年のあじさい会館オープン、同年の「ボランティア協会設立」と繋がっていくのです。これ以降、ボラ協と市社協の協働によるボランティアセンターの運営が現在まで継続されています。

理事のつばき

福岡県大牟田市の空襲と私の体験

会長 高橋功



私は父親の勤務の関係もあつた福岡県大牟田市で生まれました。大牟田市は、炭坑節でも有名な三池炭鉱(三井鉱山)があります。炭鉱の歴史は室町時代から始まりますが、明治六年(1873年)に官営化されその後、三井に払い下げられました。その関係で、三井系の石炭化学工業が集まっています都市です。

米軍は沖縄の陥落後、沖縄から九州地区の工業都市などの主要都市に重点的に爆撃を開始しました。大牟田市も特に十九年十一月から終戦前の八月八日まで15回B24やB29による爆弾や焼夷弾攻撃があり犠牲者の数は約九百人と言われています。

大牟田には「大牟田の空襲を記録する会」があり、七月に第十九集を発行しましたが、その中に私も寄稿したのでその体験記も含めて書いてみたいと思います。

【昭和二十年六月十八日焼夷弾攻撃】(午前一時から三時九分) 犠牲者百五十八人

米軍のB29は三十三機の上空に大編隊で侵入し、角の焼夷弾をバタバタと落としてきます。私は白いシャツを着て家の前の崖上からその様子を見ていました。焼夷弾を投下した後、6角弾がはっと割れてバタバタと落ちていきます。市街の炎が照らされて花火みだりに見られるようになっていました。

【昭和二十年七月二十七日焼夷弾攻撃】(午前0時十

二分から一時三十一分) 犠牲者二百九十一人

七月二十七日の空襲では家に焼夷弾が落ちたために防空壕を出て避難しました。避難するときに防火用水があり、私が最初に入らされましたが、その時防空頭巾を取って入ったためにそこに焼夷弾の破片が飛んできて左の頭をかすめていきました。出血でシャツは真っ赤、長姉に三角巾で応急処置をしてもらい避難の隊列に入りました。社宅から少し離れた坂を祖母、妹をおんぶした長姉、次姉、私、弟、妹……と進んだ時に焼夷弾が祖母に直撃、祖母と長姉は崖下に飛ばされました。次姉は垣根に引っ掛かりました。祖母は即死、妹は長姉の下になり圧死、長姉は右半身を火傷し、三井病院の地下病棟で数か月入院しました。私は翌日七針縫いましたが今でも三日月の傷があります。

社宅は北側と南側に高射砲陣地があり良くクラマシヤカーチスなどの戦闘機が急降下で機銃掃射しているのを見ていました。

【昭和二十年八月七日爆弾攻撃】(午後0時五十分から0時五十分) 犠牲者二百六十八名

【昭和二十年八月八日爆弾攻撃】(午後七時三十分から八時三十分) 犠牲者四十名

七月の空襲の後、我々家族は10日くらい先の倉永に疎開しましたが、八月七日、八日も工場地帯に爆弾攻撃がありました。倉永では長崎の原爆も見ました。雲間から赤い光を見ましたが今から思つて原爆のきのこ雲を見たのじやないかと思えます。又、天皇陛下の終戦の詔勅も倉永で聞きました。

余談になりますが、姫路に戦災被害者の慰霊塔があります。我が家の家族の名前はなかったのですが

沖繩を除いても凄惨な犠牲者の数でビックリしました。

最後にありますが、災害や戦争時には自分を助けることだけで精一杯でボランティアが活躍してこないと思います。今ボランティアが出来るのは平和な世の中だからで、これからいつまで生きられるか分かりませんが精一杯ボランティアに励みたいと思っています。



Twitter

ほらんていあ通信版 ツイッターコーナー

音訳コース講座を開催して

相模原市録音奉仕会 吉崎恵子

ボランティア養成講座の音訳コース講座が行われています。募集段階では希望者が少なく開催できるかと心配でしたが、録音奉仕会としてもPRに努め、努力の甲斐あって十名の希望者が集まりスタートできました。ボランティア養成講座は、多くの市民に知っていただき、多くの人に受講して欲しいと願っています。

私が受講したのは三十年以上も前になりますが、教えてくださった先輩の一語一語が新鮮で、心地よい緊張感を持って勉強しました。我が家の子供たちは「おかあさんごっつしたのっ」と、私が辞書を繰って調べ、予習する姿を不思議そうに見ていたことを思い出しています。

今年の受講生も来年度には揃って録音奉仕会へ登録し、同じ仲間として活動・活躍していただくことを楽しみにしています。





ボランティアさん募集！

能楽体験のお手伝い

- 内 容 障がい児者対象「日本文化に触れよう～能楽体験～」のお手伝い。教室移動の際の誘導をお願い致します。
- 日 時 平成30年11月17日（土）午後1時30分～3時30分
- 場 所 けやき体育館（相模原市中央区富士見6-6-23）1階と2階（けやき体育館事務室前に午後1時集合）
- 持ち物 白足袋か、なければ白いソックスをご持参ください。動きやすい服装でご参加ください。

連絡・問い合わせ先

相模原ボランティア協会あじさい連絡所：電話 042(759)7982
 相模原市社協 中央ボランティアセンター：電話 042(786)6181



《今月のイラスト》
 …気持ちの良い季節には掃除でもー《

読者の皆さまへ

寄付者が税制面での優遇措置を受け

受けたい方へ

寄付のお願い

ボランティア協会は、皆様からのご支援のお陰をもちまして、今年五月から五年間認定の期間更新を受けることができま

した。引き続き寄付金控除制度をご利用いただけますので、今後いそ活動にご支援下さるご寄付をよろしくお願い申し上げます。

また、今年十一月までの寄付をいただいた方と確定申告の間隔が空きます。

詳細は、当協会にお問合わせ下さい。

認定NPO法人

相模原ボランティア協会

電話 042・759・70002

会員の皆さまにはおなじみの銀行の払込取扱票（手数料協会負担）を同封いたしますので、よろしくお願ひします。（総会正画委員会）

編集後記

台風二十四号の後、近くの公園を歩いた。大きな銀杏が根こそぎ倒れ、どんぐりがいこぼれ落ちていた。

ドングリの袴に横縞（かしの木）・ポツポツ（じなら）があるのに初めて気付いた。

たくさん拾って来月は老人ホームで木の実に折り紙のリースを作ります。

(三)